

会議名	第2回苫小牧市多文化共生指針策定会議
日時	2024年10月22日 13:00~14:30
場所	苫小牧市役所5階第2応接室
<p><u>委嘱状交付</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 事務局から小泉委員へ委嘱状交付。小泉委員からご挨拶。 <p><u>部長挨拶</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 苫小牧市総合政策部長 町田さまよりご挨拶。 <p><u>協議事項</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 指針策定の現状について、事務局から説明願う。(小田島座長) ➤ 指針策定の現状について、事務局より説明。続いて指針の素案について、事務局より説明。(事務局) ➤ ただ今の説明について、何か質問や意見等があれば発言いただきたい。(小田島座長) <p>■ 質疑</p> <p>目標I</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 施策 1-2「ノウハウの共有」について、具体的なイメージはどのようなものか？言語的対応なのか、もう少し方法論的な部分なのか？何のノウハウなのかより分かりやすい表現が良いのでは？(五十嵐委員) ➤ 承知した。持ち帰って検討する。(事務局) ➤ KGI・KPIとは何か、もう一度説明してほしい。(小田島座長) ➤ KGI は、本指針の各目標について、それを達成するにあたり何をもって成果とみなすかという指標、KPI は、KGI を具体的に分解し、KGI という最終目標を目指すためにクリアしなければならない中間目標という位置づけ。(事務局) ➤ 施策 1-2「ノウハウの共有」の KPI となっている、苦情・問い合わせは具体的にどんなものがあるか、回答可能な範囲で教えてほしい。(小田島座長) ➤ よくある苦情・問い合わせの例としては、手続きに長く待たされる、たらい回しにされる、書類が分かりにくいなど。(事務局) ➤ 施策 2-1「手続きの簡略化」について、書類等の翻訳だけでなく、どういう書類なのか、どのような場合に使うのかといった説明も併せてであると良い。自国にない制度については、言葉を置き換えるだけでなく、制度そのものについての理解を促すことも必要。(ハニック・事務局) ➤ 施策 1-1「やさしい日本語の普及」について、やさしい日本語そのものがまだ地域に浸透していない。やさしい日本語普及の前段階として、やさしい日本語は何なのかの啓発も必要と考える。(千寺丸委員) ➤ やさしい日本語と併せて、多言語化の活用も有効。踏み込んだ手続き等の場面では、やさしい日本語だけでは対応しきれない。(小田島座長) 	

- 多言語化ややさしい日本語化は、各々の施設で対応するのではなく、苫小牧市として一括してマニュアルや資料を作成されるという理解か？（笠原委員）
- 今すぐに全て一括して対応するというよりは、まず施設ごとのニーズや課題に応じてできるところから進めていくという認識。（事務局）
- 外国人として、ではなく、同じ住民として対応すべきというのが目標 I の基本姿勢になると考えている。日本人と同じレベルの生活やサービスが等しく提供され、享受できることがあるべき姿という観点で、アクションプランや実行計画の見せ方や文言等を工夫できれば良い。（田村アドバイザー）

目標 II

- 学校の現場に負担がかからないよう、外国人の児童・生徒が入学してきてからでなく、入学する前からの対応が必要。例えば、日本語の指導が必要な場合の教職員の定数加配について、道教委への加配措置の申請締切が早いため、何名の外国人の児童・生徒が入ってくるか学校側が把握できる前に、申請が終わってしまう。そのため、実際の入学数が分かってから、実状に合った加配措置の申請をすることができない。あらかじめどのような準備をすべきか、校長間でも情報共有しておく必要がある。（松井委員）
- また、外国人の児童・生徒に関しては、十分に支援を受けられなかったり、クラスに馴染めなかったりする現状に慣れてしまっている可能性もある。日本人の児童・生徒も、急に外国人の児童・生徒が増えると混乱してしまう。そうした対応を学校任せにせず、また、外国人の児童・生徒がまだいなくても、トップダウンで一斉に意識づけしてほしい。（松井委員）
- 加えて、子育てや保育等の視点も入れ込んでみては？（松井委員）
- いただいた問題意識は、学校教育課や教育委員会へのヒアリングからも把握していた。その中で、今回の指針に明記するよりは、もう少し善処できる体制を検討していきたいという結論になった。指針に記載していないから実施しない、ということではないとご理解いただきたい。（事務局）
- また、子育てや保育等の視点に関しては、目標 I の基本方針 3「安心・安全な暮らしの推進」で補うように考えている。子育て関係も力を入れていることを分かりやすく伝えたほうが良いのでは、というご意見として承った。（事務局）
- KGI に関して、日本人市民との交流率ではなく、双方の交流率のほうが適切なのでは？ また、基本方針 5「ユビキタスな日本語学習環境の整備」に関連し、こうしたアクションプランがあれば良いと思うが、国でも相当の ICT 教材をもって、それでもなお自主学習が成立しない状況にあるところ、苫小牧でどうやって実現していくのかという印象を受けた。オンデマンドは一方的に映像を流すので、それを苫小牧市として実行するよりは、国や北海道が作成した教材を利活用して、それをコーディネートする人材を増員するといった施策のほうが良いのでは？ また、日本語学習を受ける側の人たちを誰と想定しているのか気になった。（五十嵐委員）
- 再三になるが、外国人市民のためにやることではないという意識が必要。本来は外国人市民が一人いなくても、多文化共生教育は実施すべき。対症療法ではなく、今後のためにという姿勢

が必要。(田村アドバイザー)

- 地域日本語の位置づけを明確にすべき。地域日本語教室で体系的な日本語教育を実施するのは不可能で、地域日本語は地域住民との交流の場と考えている。(田村アドバイザー)
- デジタル化が進むと多言語化も進む。政府もこれから 5 年かけて DX を進めていくので、本指針では 5 年先を見据え、地域全体を視野に入れた目標感で捉えておくのが良いのでは。(田村アドバイザー)

目標 III

- 企業の現場での実態はどうか？賃金水準、賃金格差など。日本人・外国人間の水準の違いや格差は、本来的にはあってはいけないこと。(高田委員)
- 施策 9-2「帯同家族への就労の補助」について、表現は補助より支援のほうが良いのでは？(高田委員)
- 支援という単語が多用されすぎないように工夫している。他の施策の表現も確認したうえで検討する。(事務局)
- 基本方針 8「企業間連携の推進」について、各施策が 3 年間「検討」のステータスであることが気になった。(阿部委員)
- 既存の枠組みや取組があるものは実施に移行しやすいという観点で、基本方針 8「企業間連携の推進」に掲げている施策は、既存のものがないということから、関係機関と検討を要するという意味で「検討」のステータスとしている。(事務局)
- 施策 7-1「産学の取組に対する支援の整備」の KPI について、「定着率」をどのように定義する予定か？海外では日本のような終身雇用の概念がそもそも薄いと思うが、この「定着率」の目線は外国人従業者なのか、企業側なのか？値をどう計測するのが良いか、判断が難しいと思う。外国人の離職率が高いと嘆く日本企業がよくあるが、海外では転職は当たり前のこと。(小田島座長)
- 理解した。持ち帰って検討する。(事務局)
- キャリアデザインという要素が重要。育成就労という新制度により、その地域でのキャリアアップを目指すような方向性になってきた。定着したい、このまちに未来があると思えるまちをつくることが重要。そういう意味で、「自分らしく暮らせる」ような書きぶり・表現にできるとよい。(田村アドバイザー)

目標 IV

- 各施策の「双方向、双方共生」というニュアンスがより伝わるようにできると良い。(笠原委員)
- 分かりづらい、伝わりづらい部分は改善していきたい。(事務局)
- 施策 10-1「若年層を巻き込んだ情報の発信」の、若年層を「巻き込んだ」という表現について。もう少し自発性が伝わるような柔らかい表現にしてはどうか？(高田委員)
- 承知した。多様な主体に積極的に情報発信していただきたいという思いがあるので、持ち帰って検討する。(事務局)

- 外国人市民はどのような SNS を活用しているのか？色々なイベントを実施しているが、現状なかなか外国人の方の参加が少ない。また、イベント等を周知するにしても、多言語対応ができていない。（小金澤委員）
- Facebook やInstagramをよく使っている。しかし、イベント情報は日本語がほとんどなので、日本語初心者には言語的に情報が届かない。周知ツールの利活用に加え、やさしい日本語化や多言語化もあわせて必要。（ハニック・事務局）
- 国籍や年代によって使用する SNS が異なるため、HIECC にある外国人相談センターは 10 種類の SNS を使っている。（小田島座長）
- 昨年度に実施した外国人市民アンケートで、よく使用する SNS を集計しているので、参考にしていきたい。（事務局）
- 指針には入ってこないかもしれないが、宗教への対応について。どこかに宗教施設をつくるなど、対応できる余地はあるかもしれない。（高田委員）
- ボランティアスクールについて。定員を大幅に超える応募があった。ボランティアに対する若年層の意識も高く、こうした取組を複数年継続してできれば良いと思う。また、先日数名の若い外国人がボランティア登録に来てくれた。積極的に情報発信していたわけではなかったが、こうした活動に関心を持っていただいていると認識した。今後より情報発信力を高めたい。（千寺丸委員）
- 指針素案の全体について。苦小牧らしさを出すこと、ストーリー性や特色がもうひと踏ん張りほしい。策定しておしまい、ではなく、市民が読んで「自分たちのブランド」と思えるような、我がまち感がもう少し出ると良い。（田村アドバイザー）
- 関係者だけが知っている、ではなく、市民皆が理解している、浸透していると一番良い。（小田島座長）

今後の予定について

- 11 月にパブリックコメントを実施し、本会議でのご意見および市民の皆さまからのご意見を反映させる形で指針を完成。また、次回の会議は 1 月を予定している。具体的な日程は、決まり次第ご連絡する。（事務局）

閉会

- 気になった点等があれば、随時ご意見いただきたい。（事務局）